

南アフリカ為替週報

2021年12月16日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (12月9日～12月15日)

USD/ZAR: 15.6950～16.2400

ZAR/JPY: 7.01～7.24 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下落の先行から、そのまま軟調推移を続け、対ドルでは年初来安値(昨年11月初来の安値)をうかがう水準、対円でも今年2月初来の安値をうかがう水準まで下押しした。9日のランド安は、発表された南ア第3四半期経常収支の下振れに失望した値動きと思われた。経常黒字の縮小は、金、プラチナなど南ア主要輸出産品の価格低迷から予想できたことであり、弱めの予想を若干下振れたとはいえ、引き続き明確な黒字である事実は、実のところ、そこまで失望を買う数字でもなかったものと思われた。それでも、その後もランド軟調気味の推移が続いた経緯は、オミクロン株の蔓延と、夏の観光需要期を前に90を越える国々が(南アを含む)アフリカ南部諸国への就航を取り止めたことに対する懸念が、引き続き、重く押し掛かっていたということであろう。15日にかけてのもう一段のランド下振れは、同日に発表を控えた米連銀公開市場委員会で、資産購入策の段階的引き揚げ(テーパリング)の加速が決定される可能性を材料視したドル全面高の一環と考えられた。あわせて、南ア固有の要因として、同日発表の南ア11月CPIが注目を集めたが、前年比+5.5%は、17年3月来の高水準であったものの、市場の予想通り。同時に発表されたコアCPI(前年比+3.3%)は歴史的な低水準でもあり、意外感には乏しかった。敢えてランド売り要因を探すなら、南ア高等裁判所が、同日、ズマ前大統領の再収監を命じたこと(後述)を挙げることはできたかもしれないが、ランドや南ア資産市場がどこまで材料視したかは定かではなかった。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
12/9	9:00	経常収支(ZAR)	Q3	+226bn	+259bn	+311bnr
	9:30	鉱業生産(前年比)	10月	+2.1%	-1.0%	-3.4%
	11:00	製造業生産(前年比)	10月	-8.9%	-1.6%	+0.7%
12/15	8:00	CPI(前年比)	11月	+5.5%	+5.5%	+5.0%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (12月16日～12月22日)

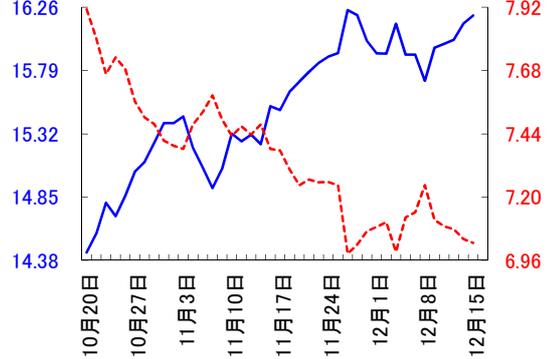
USD/ZAR: 15.900～16.300

ZAR/JPY: 6.95～7.15

向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感に乏しい膠着を予想。敢えて選ぶなら、直近安値(11月26日の16.3675(対ドル)、6.95(対円))を割り込むようなランド安よりは、同水準を持ちこたえて、底堅い値動きを見せる展開を中心に見込む。11月26日のランド安は、オミクロン株の発現が確認され、南ア経済の先行きに大きな不透明感が広がったことが主因だった。上述の通り、その後、その状況が改善したとは言えないものの、現在までに重症化/死亡のリスクが低いことはほぼ「確認」されたはずで、今一度安値を割り込むほどのランド売り再燃は考え難いのではないかと。一方で、短期金利先渡市場(FRA 2×5カ月物)などは、来年1月27日の南ア準備銀金融政策委員会における25b.p.利上げを完全に織り込んでしまった状態にあるが、その利上げ期待が空振りに終わる可能性は、目先、逆にランド上値を押さえる要因になろうか。オミクロン株蔓延が南ア経済に与える影響は、未だ読み切れない部分が大きいし、南ア準備銀としては、1月19日発表の南ア12月CPIを見極めた上でないと、いずれにしても腹は固められないだろう。南ア物価は、近年2月に上振れる傾向が読み取れるが、手元の試算は、12月、1月の物価は(前年比で見ると)頭打ちになる可能性を示唆している。とすると、年末を控えたこの時期に限れば、利上げ期待が更に高まり、ランドを押し上げるような展開も考え難い。ズマ前大統領再収監は、与党アフリカ民族会議(ANC)ズマ前大統領派が7月に起こしたような抗議行動から広がった暴動・略奪が再び起きる可能性を警戒させるが、7月の暴動の広がりが「限定的」だったとの認識で、ズマ派残党の勢力の衰えを確認したとの「整理」が現在までに成立している。こうした「整理」を所与に考えるなら、正すべきは(たとえ相手が前大統領でも)正すとの筋が通されることは、南アの法の支配の強さと、ラマポーザ大統領の党内基盤の磐石さを確認する出来事として、逆に好感することもできるのではないかと。

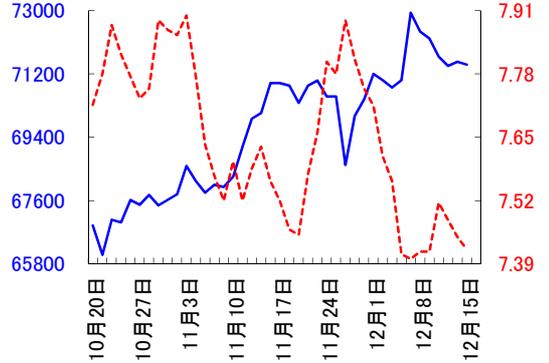
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	12月15日	7.420%
株価指数(JSE全株)	12月15日	71467.17
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	11月	+5.5%
小売売上高(前年比)	10月	+1.8%
製造業生産(前年比)	10月	-8.9%
鉱業生産(前年比)	10月	+2.1%
貿易収支(ZAR)	10月	+19.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	12月15日	1767.89

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。